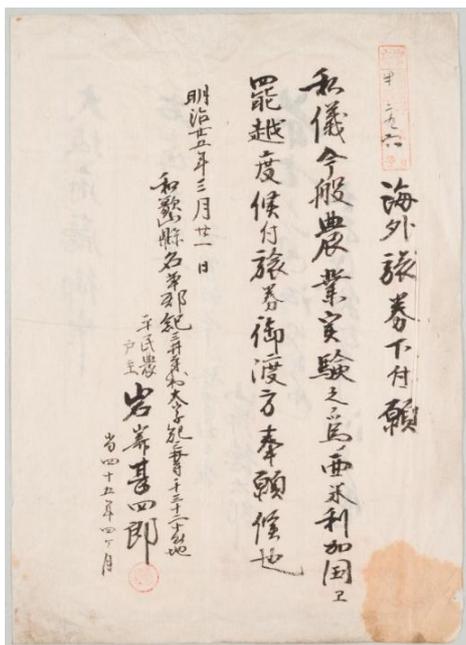


# 明治時代の交通 —手紙でたどる明治時代の移民1—

19世紀後半、アメリカ・ドイツを中心とする第2次産業革命と日本での産業革命の進展により急速に交通が発展しました。1892(明治25)年に紀三井寺村(現和歌山市紀三井寺)からアメリカ合衆国サンフランシスコへ渡った岩崎甚四郎の手紙から、19世紀末における交通の発展についてみていきます。

## 1 資料

### 【資料1】海外旅券下付願



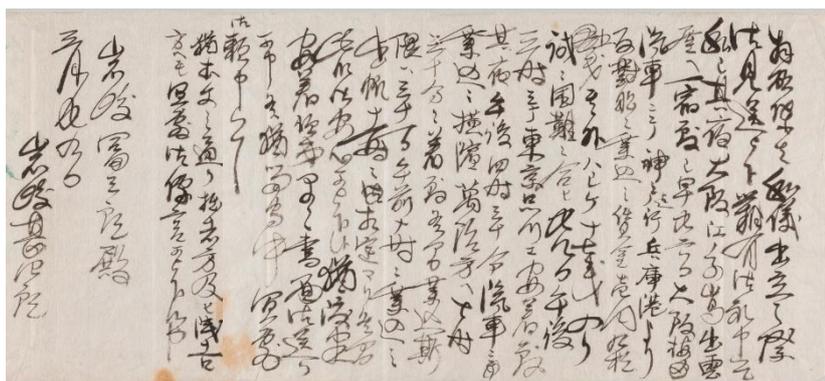
### 【翻刻】

海外旅券下付願  
私儀今般農業実験之為メ亜米利加国ニ  
罷越度候付旅券御渡方奉願候也  
明治廿五年三月廿一日  
和歌山県名草郡紀三井寺村大字紀三井寺三十二番地  
平民農 岩崎甚四郎 (印)  
戸主  
当四十五年四カ月

### 【大意】

海外旅券下付願  
私はこのたび農業従事のため、アメリカ合衆国へ参りたいので、旅券の交付をお願いいたします。  
明治二十五(一八九二)年三月二十一日  
和歌山県名草郡紀三井寺村大字紀三井寺三十二番地  
平民農 岩崎甚四郎 (印)  
戸主  
四十五歳四カ月

### 【資料2】横浜到着につき書状



### 【翻刻】

拝啓陳は私儀出立之際  
御見送被下難有御礼申上候  
私シ其夜大阪江ノ子島出雲  
屋へ一宿致シ早廿六日大阪梅田  
汽車ニテ神戸迄行兵庫港より  
反対船ニ乗込ミ賃金壹円九拾  
五銭其外ハシケ十七銭入り  
誠ニ困難ニ合ヒ廿八日午後  
三時ニテ東京品川エ安着致  
其夜午後四時三十分汽車ニ  
乗込ミ横浜萬治方へ七時  
三十分ニ着到候間乗込ス  
限ハ三十一日午前十時ニ乗込ミ  
出帆十一時ニ相定マリ候間  
此段御安心可被下候猶渡米  
安着次第早々書面御送り  
可申候猶留守申中宜敷  
御頼申上候  
猶本文之通り拙者方及ヒ浅吉  
方へも宜敷御伝言可被下候也  
岩崎甚四郎  
三月廿九日  
岩崎甚四郎

### 【大意】

拝啓 私の出立の際、お見送りくださりありがとうございます。私は、その夜大阪の江之子島にある出雲屋へ一泊し、二六日に大阪梅田から汽車で神戸まで行き、兵庫港より反対の船に乗り込み、賃金一元九五銭、これ以外に船(ここでは、港から乗客船に乗り移る際に使用する船のこと)は一七銭支払い、誠に困難に遭いました。二八日午後三時に東京品川へ無事到着し、その夜午後四時三〇分の汽車に乗り込み、横浜の萬治宅へ七時三〇分に到着しました。アメリカへの船の乗込期限は三一日午前一時に、出帆時間は一時間に決まりましたのでご安心ください。なおアメリカに無事到着次第、早々に手紙をお送りします。なお留守の間よろしくお願いたします。  
なおこの手紙の旨、私の家族及び浅吉方へも伝言をよろしく願いたします。  
岩崎甚四郎殿  
三月二十九日  
岩崎甚四郎

## 2 解説

### (1) 日本からアメリカへ渡ることを可能にした近代化

明治時代の日本では、働く場所を求めて海外へと移住する人々<sup>1</sup>が増加し続けました。このような大規模な移民の背景には、世界規模の交通手段の発展や欧米における工業化の進展等がありました。

### (2) 本資料について

#### ① 岩崎家文書移民関係資料

岩崎家文書には、紀三井寺村(現和歌山市紀三井寺)からアメリカに渡った人々からの手紙などが残されています。資料1は、紀三井寺村からアメリカへと渡った岩崎甚四郎が出発前に大阪府庁に提出した海外旅券(パスポート)の申請書です。資料2は、甚四郎が道中の横浜から紀三井寺村の義兄・岩崎富三郎へと送った手紙です。甚四郎は7人の子を養うため、1892(明治25)年、45歳のときに家族を紀三井寺村に残し、単身アメリカへと渡ります。

#### ② 紀三井寺村からサンフランシスコへ

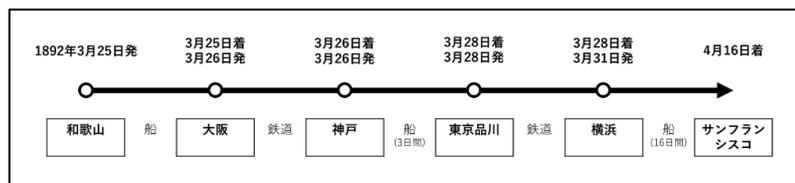
1892(明治25)年3月21日、甚四郎は海外に渡るために必要な海外旅券発行の申請書(資料1)を大阪府庁へ提出します。当時、和歌山県での旅券の発行が少なかったため、大阪府へ願い出ることが多くありました。渡航目的は「農業実験」(農業従事)、渡航先は「亜米利加国」(アメリカ合衆国)とあります。その4日後の25日に、大阪府から申請の許可を受けました。

和歌山からサンフランシスコへ向かう船がある横浜までの甚四郎の道のは、富三郎に宛てた手紙(資料2)から明らかになります。甚四郎は、25日に富三郎などの家族の見送りを受けて和歌山を出発します。資料2には和歌山から大阪までの交通手段は記されていませんが、和歌山本港(現和歌山市湊)から出発する大阪行きの船を利用したと考えられます<sup>2</sup>。甚四郎は大阪に到着後、江之子島(現大阪市西区)にある出雲屋という旅館に宿泊しました。

26日、甚四郎は大阪梅田から神戸までの汽車に乗りました。当時の神戸は、1858(安政5)年締結の日米修好通商条約に基づき1867(慶応3)年に開港した近畿地方最大の港町でした。例えば、1890(明治23)年のエルトゥール号の遭難では、遭難者は串本から神戸へ搬送され治療を受けた上で、神戸港からオスマン帝国の首都イスタンブールまで移送されています。

その後、甚四郎は兵庫港から東京品川行きの汽船に乗り、28日午後に到着しました。江戸時代には、江戸-大坂間は陸路・海路ともに約15日間かかっていましたが、1880年代後半には、日本の産業革命の進展とともに鉄道や海運の整備が進み、所要時間は短くなりました。続いて、甚四郎は品川から横浜行きの汽車に乗りました。この路線は、1872(明治5)年に開業した新橋-横浜間の日本初の鉄道です。

横浜港では、渡航にあたって様々な手続きや検査がありました。横浜港周辺には、海外へと渡航する人が出発までの数日間宿泊する移民宿があり、宿泊だけでなく乗船券の販売や眼と感染症の検査、荷物と身体の消毒、書類の作成等の案内と世話を行っていました。この移民宿には「紀ノ国屋」など地名を冠する宿も多く、その宿にはその県出身者が多く宿泊していました。



甚四郎の行程

甚四郎は3月31日に船で横浜を出発、4月16日にアメリカ・サンフランシスコへと到着しました。

<sup>1</sup> 解説シート「[那賀地方の移民](#)」では、明治時代にアメリカで事業を成功させた日本人移民に関する解説があります。

<sup>2</sup> 1903(明治36)年に難波駅-和歌山市駅間の南海鉄道が開業するまで、和歌山市と大阪市を直接結ぶ鉄道はありませんでした。[解説シート「高野山と大衆文化」](#)には、大正時代の南海鉄道の時刻表があり、難波駅-和歌山市駅間が約2時間で結ばれていたことがわかります。

### 3 活用のポイント

- **中学校社会〔歴史的分野〕の場合…C 近現代の日本と世界**

各時代と現代の和歌山から東京(江戸)やサンフランシスコへの移動手段や所要時間を調べる活動を通して、交通が飛躍的に発展していることに気づき、その背景にある技術革新や社会の変化について学ぶことができます。

- **歴史総合の場合…B 近代化と私たち**

B(1)近代化への問いの「交通と貿易」に関する資料として活用できます。解説シートを読み、岩崎甚四郎の和歌山からサンフランシスコまでの道のりを考察することで 19 世紀末の日本や世界の交通について学ぶことができます。例えば、汽車や汽船を利用していることから当時、第 2 次産業革命によって交通が発展し、世界の一体化が進んでいたことに気付くことができます。

- **日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界 世界史探究の場合…D 諸地域の結合・変容**

この解説シートのほか、解説シート「エンジェル島と移民―手紙でたどる明治時代の移民 2―」、「日本人移民の労働環境―手紙でたどる明治時代の移民 3―」を合わせて、日本人移民に関する授業を構成することができます。各学校の実態に応じて複数回に分けて実施することも可能です。

例えば、「なぜ明治時代の日本からアメリカへと移住することができる人が増加したのでしょうか。甚四郎の移動を例に考えましょう。」と問いかけることで、この解説シートからは甚四郎が和歌山からサンフランシスコまでの移動手段に汽車や汽船を利用していることから交通が発展したことを学ぶことができます。

また、「明治時代の日本人移民がアメリカへと渡る際の環境はどのようなものだったのでしょうか。」と問いかけることで、この解説シートからは、横浜で移民宿といった日本人移民に対する支援の仕組みが生まれていたことや、甚四郎が家族に細かく手紙を送っていることから家族に対する帰属意識の高さを学ぶことができます。

### 4 出典

- ・【資料 1】当館寄託 岩崎家文書 整理番号 657 海外旅券下付願(農業実験のためアメリカへ罷り越したくにつき)
  - ・【資料 2】当館寄託 岩崎家文書 整理番号 810-41〔横浜到着につき書状〕
- ※文書群の詳細については、[和歌山県歴史資料アーカイブ「岩崎家文書移民関係資料（和歌山県立文書館寄託） 解題」](#)をご覧ください。

### 5 関連資料・ウェブサイト等

- ・[西山史朗「ある移民のアメリカ生活譚\(1\)」\(『和歌山県立文書館だより第 59 号』2021 年\)](#)
- ・パネル展示「手紙でたどる明治時代の移民生活」(和歌山県立文書館)
- ・[移民資料室\(和歌山市民図書館\)](#) ・ [JICA 海外移住資料館](#)

### 6 参考文献

- ・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史 近現代 1』和歌山県、1989 年
- ・和歌山市史編纂委員会編『和歌山市史 第 3 巻』和歌山市、1990 年
- ・『和歌山県移民史』和歌山県、1957 年